

第2回 アスリート・観客にやさしい道の検討会 議事概要

【日時】 平成27年6月19日（金） 8：15～9：15

【場所】 中央合同庁舎3号館11階特別会議室

【出席者】

屋井鉄雄座長、尾縣貢委員、瀬古利彦委員、花岡伸和委員、平田竹男委員、
廣瀬隆正委員、結城和香子委員、横溝良一委員

【議題】

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組状況について
- ・路面温度上昇抑制機能を有する舗装技術の効果検証計画（案）について

【議事概要】

（舗装の効果検証について）

- ・散水すると余計滑りやすくなるかと思うのでその点も考慮していただきたい。グリップ性によってシューズの開発も全く変わってくる。
- ・発汗等の個人の感じ方は、個々の障害のレベルによっても異なるので、モニターの選定について配慮すべき。
- ・歩道上や道路わきについてもWBGTなどが計れるとよい。
- ・実施区間については提案どおりでよいが、データについては必要に応じて追加実験するなども含めて検討していただきたい。時間帯については、昼の時間帯でよい。

（マラソン競技等について）

- ・マラソンのスタート時間について、涼しい時間にスタートして暑い時間にゴールするのか、暑い時間にスタートして涼しい時間にゴールするのかによって、アスリート・観客に影響が出てくる。
- ・コースについては、立候補段階では、新国立競技場をスタートして、新国立競技場に帰ってくる案となっており、それをワンウェイにするか折り返しにするかは、組織委員会や競技団体だけで決めるのではなく、警視庁とも関係するため、時間帯の議論を踏まえてきまってくることになる。
- ・折り返しのコースになると、観客の待ち時間が長くなることに注意が必要。IOCは、開催都市の映像を発信することを重視するので、周囲が映らない時間帯はその点がデメリットになる。

（その他）

- ・暑さ対策について、観客がどういう服装や備えをしたらいいか、壁面をどうしたらいいのかなど、日本の産業界が対応すべきことを総合的に考えなくてはいけない。
- ・東京都としては道路でできる対策を検討中であり、例えば、剪定時期を調整して、大会期間中に木陰を作ったり、ドライミストを設置することも考えている。
- ・環境舗装は、早く更新しすぎると効果が落ちると前回伺ったが、どの程度の効果の持続性があるのか。